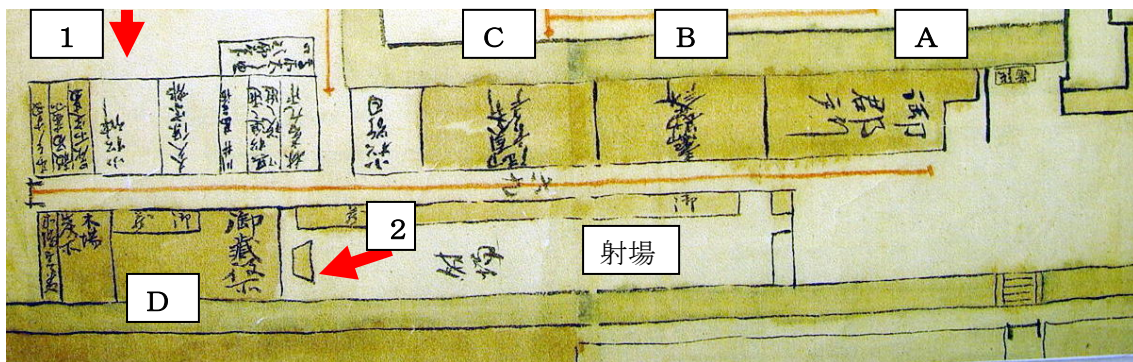


## 7-3

## 六九町の変遷

六九町は三の丸の外にあって、郭外の地でした。すでにご存じのように六九町は松平直政が54頭の馬小屋を建てたことに由来するといわれています。ここは安永5年(1776)の大火が焼けた後は道の南側に藩の蔵が建てられ御蔵役所もありました。北側は郡所・表勘定所・御預所などの官庁街でした。

1 下は幕末の六九町の絵図です。郡所・表勘定所・御預所等が書かれています。それぞれの役所はどのような仕事をしていたのか下から選んでください。



A 御郡所 ( ) B 表勘定所 ( ) C 御預所 ( )  
D 御蔵役所 ( )

- ① 天保9年城内より移転。金穀の収支、山林に関する諸政、紺屋・綿打・商札・質営業等の出願に対する許可を取り扱う。
- ② 安永8年町所と合併した。領内の政務をおこなう。町内の警邏も行う。宗門方・物価の調節等をつかさどる値段方・川除方を等の分課があった。
- ③ 藩主の内向きの収支を統括する。お坊主、鷹匠・餌差を統括した。
- ④ 武具・武器の保存・手入れ、購入、給与等の事務を扱う。
- ⑤ 幕府領のうち松本藩の所管する地域の政務をつかさどった。
- ⑥ 年貢米を収受し、藩士に対して扶持知行の配給を行った。

2 六九町の北側、赤矢印1に「小松仲」の屋敷があります。彼は松本藩のある武芸の師範ですが、その武芸とは何でしょう。( )

- ① 剣術                      ② 槍術                      ③ 馬術                      ④ 柔術

3 六九町の南側には安永5年厩が焼けた跡に「万俵蔵」が建てられました。その南側は「射場」となっています。赤矢印2の施設は射場には必ずあるものですがその名称はなんというでしょう。漢字で「塚」と書きます。

- ① あずさ                      ② あぜち                      ③ あずち                      ④ あたけ

4 明治9年ころの六九町の様子です。六九町南側には開産社が展開しています。明治6年筑摩県によって産業振興のために設立された「勸業社」が明治7年開産社と名を改めたものでした。資金を蓄積し民間に融資することで産業を発展させることを目的としていました。

(1)「あ」の場所には植物がたくさん植えてありますがここは何と呼ばれていたでしょう。

- ①開産社公園
- ②開産社植物園
- ③開産社植物試験場
- ④開産社農場

(2)「い」は女鳥羽川の水流を利用した水車が「ガラ紡」といわれた太糸紡績機を動かしていました。この紡績機を発明したのは安曇郡小田井村出身の「臥雲辰致」ですが、人名に読み仮名をつけてください。

「臥雲辰致」

(3) 六九町の対岸には明治9年新築された学校が見えます。この校名を漢字で正確に書いてください。

学校

5 右写真は明治40年ころ、千歳橋から西側を撮影した写真ですが矢印の建物はなんでしょう。

- ① 松本電信局
- ② 松本電報局
- ③ 松本電話局
- ④ 松本郵便局



(「松本市史」第二巻 歴史編Ⅲ 近代より)

